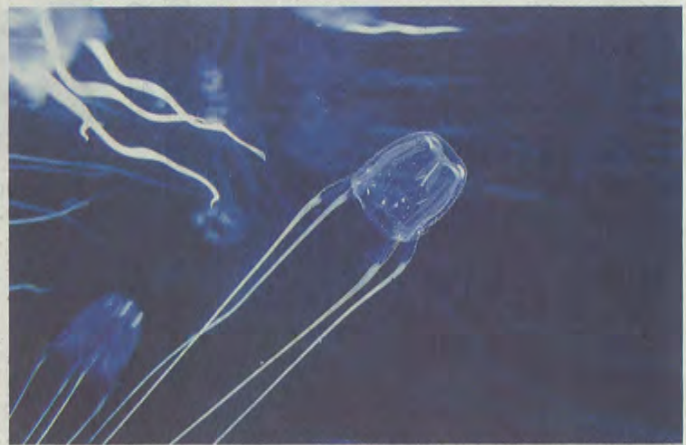


海の「行灯」ゆらゆら泳ぐ 鴨川



展示されているアンドンクラゲ（鴨川シーワールド提供）

鴨川市の鴨川シーワールドで、「アンドンクラゲ」の展示が始まった。初夏から秋に房総半島沖に現れ、海水浴客を刺すこともある厄介者だが、長い触手を揺らめかせて泳ぐ姿が来館者を楽ませている。

アンドンクラゲはカサの部分が高さ3センチほどの立方体で、下に伸びる4本の触手は長いもので30センチ以上にもなる。触手には強い毒があり、小魚などを捕まえて

食べる。カサの形と触手が「行灯」を連想させることが名前の由来だ。

同館は、このクラゲが光に集まる習性があるのを利用して、鋸南町の保田漁港で7月14日夜、投光器を照らして捕獲し、展示を始めた。担当者は「夏季限定の展示なので、ぜひ見に来てほしい」と呼びかけている。

問い合わせは同館（04・70933・4803）。